

みんなのた場

サ一フル仲問 (83)

一般社団法人 新古里農園

自然とともにイキイキ 大事に育てた野菜人気

北上地区の一般社団法人「新古里農園」は、にっこりサンパーク入口付近の農園で野菜を栽培し、販売しています。メンバーの女性6人は仮設にっこりサンパーク団地の入居者や元入居者が中心で、野菜づくりを日々の楽しみとする。同時に、団地内で週1度の販売会を行い、入居者の方々の買い物物の不便解消に貢献しています。

もともとの活動は、東日本大震災後、北上中学校への避難者の食料確保から始まり、グラウンド横に

あった同校所有の畑を借り、大根やじゃがいも等の栽培を行っていました。

平成24年からは、自然災害被災地の自立支援等を行うNPO法人パルシックの協力で、にっこりサンパークの入口付近にハウスや事務所を設け、そこで生産した野菜の販売を始めました。さらに昨年2月には一般社団法人化し、より自立した活動へと力を注いでいます。

現在は30代から70代の計6人が所属しています。平日の午前中に畑の手入れや、販売用の惣菜としての試作を行い、金曜日に団地内で安価で販売します。生産する野菜は種類が豊富で、近隣に買い物をする場所が少ない団地の皆さんに喜ばれています。販売会は開始前から行列ができるほどの人気です。無農薬にこだわった野菜の評判が広まり、団地外への受注販売も行っています。

農園のメンバーは、震災前も趣味で自家菜園を行ってききましたが、販売は初めての経験です。ほとんどボランティア的に行っている団地内での販売ばかりでなく、その他の販売先も確保し、自立した法人として経営を成り立たせることが新たな課題となっています。

活動当初からのメンバーである農園部の佐藤富貴子さん(70)は「自然相手の畑仕事は毎日の励みになり、生きがいです。成功も失敗もありますが、元気でいられる限り、続けていきたいです」と笑顔を見せていました。



▲新古里農園の皆さん



▲畑仕事にも精が出る新古里農園のメンバー

文化財(たんぽう) (83)

縄文時代前期の 大型住居跡

石巻市教育委員会 生涯学習課

石巻市給分浜地区の高台移動のため、行われた中沢遺跡の発掘調査で、長さ10mから23m、幅が6m程の縄文時代前期の住居跡や建物跡が見つかりました。一般的な住居の大きさは、4、5mから10mで、10m前後のものから大型住居と、20mを超す超大型建物等と呼ばれています。これらの大型建物跡や竪穴住居跡は、縄文時代早期に現れ、前期および中期前葉に特に発展し、東北地方を中心に約30遺跡で見

られますが、石巻地方では今回の発掘ではじめて見つかりました。では、大型住居や超大型建物とは、どのようなことに使われていたのでしょうか？

大型住居等の多くは、東北から北陸まで分布しており、北日本の降雪地帯にあることから、冬期の

共同作業所説があります。山形の一ノ坂遺跡(幅4m、長さ44m)では、石器の未成品・半製品が見つかっていることから、石器工房跡説があります。中沢遺跡でも、石器剥片が集中していると

ころや多くの石器が見つかっています。



▲石器集中地点



▲超大型建物跡

キラッとパチリ

復興目指して再び派遣

復興支援のために派遣されている職員皆さんから、小林さんと谷崎さんをご紹介します。

との思いで着任しました。再派遣までも、石巻には家族等と3度訪れて市民と顔を合わせてきたため「戻ってきた、というような気持ちです」と話します。

小林さんは平成24年度に続き2度目の派遣です。以前ふれあった市民の皆さんの住まい再建を見届けたい

谷崎さんも石巻市での勤務は2度目です。派遣元の

芦屋市が阪神淡路大震災時に受けた支援の恩返しのため志願し、平成25年度に訪れたのが最初で、当時は工事の発注がメインでした。工事の進展前に派遣期間が終わったことが心残りでしたが、再度の派遣で完成を見ることができ、技術職として自分の技能が役立てられていることにやりがいを感じているそうです。

今後について小林さんは「地元愛で満ちたまちになるようサポートしていきます」と語り、退職後の来年度も再任用職員としての派遣を志望する予定です。谷崎さんは「市民の皆さんになり代わることはできませんが、寄り添うことを大事に業務に取り組みしていきたいです」と話していました。



福祉部 生涯学習支援課

小林利晴さん 59歳

群馬県太田市から派遣



建設部 水道建設課

谷崎美穂さん 39歳

兵庫県芦屋市から派遣

まちの話題

雄勝地区



4月21日(火)
大原川

大きくなったら また会おう!

雄勝小学校の3・4年生児童7人が地元漁協の職員と一緒にサケの稚魚約10万匹を放流しました。放流体験は総合的な学習の「ふるさと雄勝を見つめよう」の一環で10年以上前から行われています。子どもたちは「大きくなったら戻ってきてね」、「帰ってきたら捕りたい」と言いながら稚魚の入ったバケツを川に注ぎました。サケは海で成魚となり、3～4年で産卵のために大原川へ帰ってきます。

河北地区

4月12日(日)
皿貝・観音寺敷地内



子どもの心身ケアに 山小屋完成

ライオンズクラブ国際財団の援助金による「復興と希望のライオンズの森と子どもの心のケアハウス」の完成を祝う山開きが行われました。地域を見晴らす山の中腹に年間を通して森林体験ができる山小屋と2つのあずまやが設置され、子どもたちの心身を癒やす拠点として活用されます。セレモニーには、3月に閉校した飯野川第二小学校の児童と保護者が招かれ、桃生中学校吹奏楽部の演奏等で盛り上がりしました。

桃生地区



4月24日(金)
桃生総合支所周辺

渋滞解消へ 待望の道路開通

桃生総合支所北側の県道河北桃生線、中津山地区バイパスが新設され、開通式が行われました。旧河北町針岡を起点とする同県道は、終点の約600メートル区間の車道、歩道ともに道幅が狭く渋滞が発生していたため、平成22年から工事が進められてきました。開通式では、関係者のテープカットや渡り初めが行われ、警察車両を先頭に新たに整備された区間を走行しました。

河南地区

4月19日(日)
農業担い手センター



活気呼び込む 鹿嶋ばやし山車祭り

広淵地区の春を彩る「河南鹿嶋ばやし祭典」が行われ、飾り山車が練り歩きました。山車には「桜田門外の変」で大老井伊直弼の行列に斬りかかる藩士たちや、伊達政宗が被災地を視察する場面等が地域の皆さんによって作られました。出陣式では、広淵小学校の子どもたちがにぎやかなお囃子を披露し、地域を活気づけました。

牡鹿地区



5月10日(日)
金華山黄金山神社

復興と発展を祈って 神輿渡御

金華山黄金山神社の初巳大祭(5月5日(火・祝)～11日(月))のメイン行事となる神輿渡御が神社を起点に行われました。江戸時代から続く伝統の神事で、例年、大漁や家内安全、商売繁盛等を願う七福神と神輿が行列をなして繰り出します。今年は鮎川や小淵、新浜、泊の4浜に、震災後初となる十八成も加えた総勢180人が参加して、震災犠牲者の慰霊と地域復興に祈りを込めました。

北上地区

4月18日(土)
北上川河川敷



春の風物詩 ヨシ原の火入れ

春の風物詩となっているヨシ原の火入れ作業が行われました。環境省の「日本の音風景100選」にも選ばれた北上川河口のヨシ原は、震災で群生地6割が沈下しましたが、復活を願う地元の皆さんによって手入れが続けられています。火入れは害虫駆除と新芽の生育を促すために約30年前から行われており、焼かれた一帯は数週間後には新緑で覆われました。

石巻地区



4月19日(日)
蛇田・雷神社境内

新しいご近所同士 お花見で交流

蛇田地区の沖行政区が恒例のお花見会を開きました。今年は初めて、近隣に整備された新市街地の復興公営住宅等に入居した皆さんを招待し、満開の桜の下で交流を深めました。歌のステージもあり、イベントを盛り上げました。震災前に約100世帯だった同行政区は現在、宅地造成等で約180世帯に増加しており、新しい近所づきあいをする皆さんが楽しいひとときを過ごしました。

石巻地区

5月3日(日・祝)～5日(火・祝)
石ノ森萬画館向い特設会場



親子で楽しく マンガッタン祭り

ゴールデンウィーク恒例の「春のマンガッタン祭り」が行われ、市内外から訪れた親子連れ等でにぎわいました。屋外には屋台が並び、シージェッター海斗ショーやマンガストラップづくり等の青空ワークショップが行われました。初日は石ノ森萬画館に展示されることになったスーパーマシン「トライサイクロン」のお披露目が行われ、子どもたちが見守る前で海斗たちが除幕しました。